昭和47年11月15日（毎月1回15日）発行　昭和39年2月20日　第3種郵便物認可　第10巻　第11号

月刊キブツ

'72 11・12 合併号

THE JAPAN KIBBUTZ ASSOCIATION 日本協同体協会

共同体概論ノート　向井　孝

ライフセンター共同体と非暴力訓練セミナー　制作部

日本の協同体社会　手塚信吉

オレたちの村を創ろう　弥栄之郷共同体

「月刊キブツ」第十巻第十一号
昭和39年2月20日第三種郵便物認可
（毎月1回15日発行）
昭和47年11月15日発行

月刊キブツ　1972年　十二月号（合併号）

編集兼発行人　宮部一郎

発行所　社団法人　日本協同体協会
〒151　東京都渋谷区代々木四―五―一四（参宮橋ハイツ二号）
振替東京二四四〇三　電話　三七〇―二八一三

印刷所　㈱創土社

頒価　百五十円送料十六円

協会取扱い共同体関係文献

ぼくは太陽の子どもだった

野本三吉写真集　発行・青年社　定価三五〇円

日本の共同体

●一燈園／心境農産／前森山集団農場／ヤマギシズム北試／東山産業　草刈善造・手塚信吉著　発行・日本協同体協会　頒価・二〇〇円（送料七〇円）

若きティクバ

第一次キブツ・ラマトヨハナングループ報告書　発行・ラマトヨハナンの会　頒価・二五〇円（送料一一〇円）

キブツとは何か

A・シャピロ著／手塚太郎訳　発行・日本協同体協会　頒価・五〇円（送料七〇円）

募集／キブツ労働・学習グループ

日本協同体協会では、毎年、キブツ研修生を公募し選考及び国内オリエンテーションを経て、グループを組織し、キブツへ派遣している。来年の四月に出発する第一一回分の募集は〆切ったが、次回の募集要項は『月刊キブツ』に掲載する。

■応募必要書類―履歴書・身上書・論文「私はなぜキブツに行きたいのか」・健康診断書・保証人の承諾書・所属学校あるいは団体の推薦状。

■選考―論文の審査と面接によって選考する。

■費用―往復の旅費は本人負担。72年度の場合は片道18万円。グループは現地解散となるので帰路は個人によって異なる。現地での生活諸経費はキブツ側が負担。

■現地の生活―グループは半年間で現地解散。その後の行動は本人の自由になる。グループ期間中は、一日六時間の労働、二時間の（ブライ語学習。旅行日、個人休暇、セミナー参加等の計画も含まれる。

社団法人　日本協同体協会
東京都渋谷区代々木四―五―一四
電話　〇三（三七〇）二八一三
振替　東京　二四四〇三

月刊キブツ　1972年11・12月号　第10巻11号（第104号）

巻頭言　2

時代の脚光をあびる日本の協同体社会　手塚信吉　3

世界一の精薄者養護施設心境荘苑　手塚信吉　8

共同体概論ノート　向井孝　16

ライフセンター共同体と非暴力訓練セミナー　制作部　28

非暴力訓練セミナー報告　山岡静代　34

資料・非暴力実践のための訓練技術　37

資料・非暴力による変革のための戦略　42

中東におけるイスラエルの立場　A・エゲル　52

オレたちの村を創ろう　弥栄之郷共同体　56

研究会報告　27

協会日誌　51

キブツ研修生家族会報告　62

新著紹介　63

制作部メモ　64

制作部／岸田哲・岸田恭子・百瀬直彦・上野允士（今月の責任編集）

■合併号のお知らせ■

印刷行程との関係で、11月号と12月号を合併号としました。これまでは毎月1日に発行していましたが、今月号からは15日発行になります。御了承下さい。

告知板

■日本協同体協会

▽共同体、キブツなどに関する問合わせその他で来訪の場合は平日の午後3時～6時までの間に。できれば前もって電話を。
※電話三七〇―二八一三

■ヤマギシズム東京案内所

▽しばらくのあいだ閉鎖されていた東京案内所が、場所を新たにして開設。山岸会関係の問い合わせはこちらへ。
※新宿区諏訪町三七〇―一二
電話二〇九―七三七六

■一燈園

▽智徳研修会　毎月7日～10日に実践研修により無所有奉仕の生き方を学ぶ。会費三千円。
※京都市東山区山科四の宮　光泉林　電話五八一―三一三六

■山岸会

▽特別講習研鑽会　三重県の本部では毎月1日・15日から、北海道では毎月21日から、各一週間。参加費七千円。
※三重県阿山郡伊賀町川東　山岸会本部　電話〇五九五―四五―一五四／北海道野付郡別海町美原　ヤマギシズム北海道試験場

■ヤマギシズム神戸案内所

▽読者会　毎月第一日曜日に「月刊キブツ」「ボロと水」を中心に。
▽共業企業研究会　毎月第二日曜日
※神戸市東灘区御影塚4―9―13　電話八四一―一一九一

■東京読書会

▽毎月第二第四土曜日の夜。
※府中市四谷3―55―20　ぐるーぷ・もぐら　電話〇四二三―六四―一七二四

■亀戸読者会

▽新しいメンバーの参加による本格的な読者会を目ざす。
※江東区亀戸2―6　亀戸団地四―二〇六西気付　電話六八二―九九九三

■コミュン好き者会

▽毎月第四日曜日午後一時より寝屋川市の近藤保義宅で、共同体のことを中心に話合う。
※大阪府寝屋川市木田町8―20　近藤保義方

■名古屋読者会

※名古屋市守山区小幡中新田一五〇―三　堀井気付

■仙台読者会

※仙台市旭ヶ丘2―13―23　中村方荒気付電話三三―八九七〇

■広島読者会

※広島市青崎1の1の14　池田敏雄気付　電話八二―七七五〇

■九州読者会

※福岡県三潴郡三潴町玉満二六三五―一　広松伸子気付　電話〇九四二―四―二一二五

■厚木振出塾

▽15人前後の若者たちが土方をしながら共同生活。出入自由。
※神奈川県厚木市上萩野町泉七八五　電話〇四六二―四一―二六〇八

■備北百人委員会

▽島根県那賀郡弥栄村大字三里は―38で弥栄之郷共同体を建設中。くわしくは「備北だより」（同委員会発行）を読むこと。
※大阪市東成区玉津二丁目　東成玉津郵便局留

田中首相の日本列島改造論が賛否両論入り乱れて言論界を賑わしているが、人意的に大都市人口を地方分散、二十五万都市を二、三十計画してみても、従らに土地思惑を助長し、億万成金の不労所得者を数十万人増加するだけで国費乱用に終るであろう。鳥取県や島根県の人口が四十万人に激減したのも、東京の人口が一千百万人を突破したのも、営利主義経済の必然であって、根源をそのまま人意的に左右することは無駄である。

今はその根源である営利主義経済を是正する必要にせまられている。その恐るべき害毒は全人類を蝕んでいるが、殊に日本は土地狭少、資源貧弱、人口過大で営利主義競争の放任できる国柄ではない。日中国交樹立に当って中国が最も警戒したのもそれであるときく。三菱訪中団と中国側との話合いでも

①貿易は弾力的に拡大するが中国は大量消費国としての商品市場にならない。

②中国は資源供給国にはならないし資源の収奪も許さない。

③中国は外国資本の投資も許さないし中国も外国に資本進出をしない。

④貿易決裁も恩恵的な決済条件は受けない。

と基本方針を示しているが、これは再び中国は資本主義の食物にはならないぞ、と云う宣言に等しい。

それは中国だけではない。地球上の資源は次第に枯渇して、資源の国アメリカさえ警戒を強めてきた。壕州やカナダでもいつ中国的な国策に変わるかわからない。日本の死活問題は目前にせまっている。そんな日本が乱造乱費国としてアメリカにつぐ世界第二位であり、消費は美徳なりと営利会社の宣伝に乗せられて、国民は自らの墓穴を堀っている。資本主義の番頭格日本の政治家は黙認しても天意が放任を許さないであろう。

日本は農家までも営利主義に堕落して、無知と私欲で農薬乱用、土壌の汚染度がアメリカの二十倍、世界一の農薬乱用国、米でも野菜でも果物でも厳格に検査をしたら無害のものは無いであろうと云う。あれほど大騒ぎをしたPCBも製造禁止に踏み切れず、各方面で使用中ときく。私欲中心の営利主義に目の眩んだ日本人、中国が心配するのも無理ではない。

日中国交樹立を真先きに賛成した財界人、大陸目当ての営利主義取引にあろうが、自重を忘れて馬脚をあらわさないで貰いたい。今の中国には新時代の人類の活路を示す新生活原理が育っている。それが毛沢東思想そのもの具現化であって、人間平等と労働尊重、搾取も不労所得もない働く者中心の人間社会、そして自分は人のため、人は自分のために協同協力して、一人の失業者も飢民もなく、国民それぞれ所を得て、喜々として働き、高い国家理想に「生きがい」を感じている。日本人が反省して学ぶべきものはこれである。資本主義文化の中にこの新生活原理を活かしたものがキブツ協同社会である。

巻頭言

営利主義経済の破綻

手塚信吉

時代の脚光をあびる

日本の協同体社会

手塚信吉

一、日中国交正常化と日本に生まれた協同体

一九七二年九月二十九日午前十一時二十分日中国交樹立の共同声明書調印の時刻、偶然にも日本の生んだ代表的協同体、心境農産に在って代表人物尾崎増太郎さんと対談中であった。そして長い試練の苦難を克服した先覚者も時代の脚光を浴びる時がきたようだ。偉大なる指導者毛沢東大人に導かれて八億中国の目指す人民公社の理想と実践とは、知れば知るほどイスラエル国に発展したキブツとも日本に生れた日本的協同体とも、大同小異そのあまりにも酷似しているのに驚かされる。これが偶然の一致であるだけに真理は一つの実証にもなり新時代の所産でもある。

日中国交樹立、両国が求めたものは永久平和であり、経済協力であり、国家性格も、社会体制も異なる日中両国が互の国情を理解しあって国交正常化に踏み切った以上、相互の立場を尊重して犯しもせず犯されもせず、信と友とに結ばれた隣邦として、隣友親善の永久化を切望するものであるが、その為には生成発展とどまるところのない時代の進歩と方向づけに、長短補足相協力して行く必要がある。それは易いようで単純ではない。

物質文化にせよ精神文化にせよ、より優れたものが同化力をもつであろうし、八億の影響力は一億の影響力より大である。昭和元禄日本、物質文化に酔いしれた今の日本をそのままでは、革命成った新興中国、その毛沢東思想の奔流は抗し切れるものではない。それをがっちり受けとめて取捨選択の余裕を持って我が糧として肉とし得るものは、先覚者たちの開拓した日本の協同体思想であり、協同体社会あるのみ、ところが今の日本の政財界支配層は、そんな日本の協同体の存在も真価も気付いていない。両三年にして日本の社会に動揺が起こるとすれば、それは人民公社旋風である。が、実は一層高度な道義社会として既に六十年の歴史を重ねる協同体社会が、日本に厳存している。それが一灯園であり心境農産であり山岸会である。

日本の進歩的な新聞雑誌にもつい一両年前まで、日中国交正常化の世論は見当たらなかった。殊に日本の保守党政権の首相自らが北京にとんで毛沢東御大と固い握手を交したり、疾風迅雷の日中国交樹立、そんな急変転を予想した人は野党側にもなかったようだ。『月刊キブツ』誌がときどき中国のキブツとして人民公社の成長発展を讃えた文章を掲載すると左翼的な記事として批判されていた。それが日本の頭越しに進めたニクソン外交の刺激以来、財界の一角から急変して、近々一年にして百八十度の急転回、その勇気には敬服す

るが狙いが利潤の追求中心では、これから先の日中関係必ずしも無風帯ではあり得ない。

毛沢東主席の私邸を訪れて、世紀の会談一時間余、頂戴した書籍五冊（楚辞集注）田中首相はこれをどう受け取るか。その心がまえが今後の日中国交の成否に大きく関係してくるであろう。今の日本に必要なものは物でもなければドルでもない。過去およそ百年誤って資本主義文化に汚染された日本人の魂の浄化に必要なものは精神文化そのものである。その精神文化を求めんとすれば五千年の歴史を重ねた東洋思想文化の家元である中国をおいて外にはない。この点を謙虚に反省した日中国交樹立でなければ本物ではない。それを言外に示唆しての毛沢東主席の贈書であろう。それにしても過去の罪業を思うとき首相訪中が謝罪使節でなかったことは勝ったつもりの敗け外交と私は考えて憂慮している。

世界史上最大の資本主義的、侵略搾取文化の大被害国は中国であった。過去二世紀に亘って世界列強の食物にされ、その惨たんたる犠牲は筆舌につくし難いものであった。元来他国や他人を搾取して私利私欲を貪り、栄華贅沢を競う資本主義経済は同胞骨肉まで平気で生贄としている。それが他国の侵略搾取に幾倍する犠牲者を出す。その為に過去の中国国民はその九〇％までが飢餓線上にさまよい、年々餓死者数百万人といわれていた。日本侵略時代の満州幾百万苦力の惨状を思うとき身の毛もよだつ思いであろう。

革命成って僅か二十余年、痩せた赤土と裸の国民六億人から立ち上ったのだ。貧乏の城から脱しきれないのは当然であるが、偉大なる毛沢東思想に結束して、人間平等と労働尊重を二本の柱として、働くもの中心の政治経済体制を確立し、知能労働と肉体労働の境界を除き、自分は人のために、人は自分のために協力精神を徹底化し、搾取や不労所得を人間の社会から一掃し、各自その能力に応じて働き労働に応じて報酬を受けるが、最低生活は完全に保証され、一人の失業者も一人の飢民もない。そして八億国民悉くその所を得て喜々として生活し、高い国家理想に生きがいを感じている。正に人類史上空前の大偉業であり、流石に精神文化の国中国かなである。

さて日本の協同体、そのいずれも創設者の性格思想を反映して一見相違はあるが、その中心基調をみると、人民公社のそれと大同小異であり同種同根の東洋思想文化の支流を思わせるものがある。日中国交正常化と共に思想の交流も必然であり、日本が生んだ日本的協同体の役割は大きい。病気その他の都合もあって関西旅行は三年振りであるが、ヤマギシズム豊里実顕地、山岸会本部、心境農産、一灯園と三泊四日の訪問旅行、みたまま感じたままを述べてみる。

二、ヤマギシズム豊里実顕地

ヤマギシ式養鶏法による種卵養鶏場として建設着工当時、啓蒙宣伝のお手伝いをした関係もあって、その健全な発展を祈る一人であるが、一昨年八月関西旅行の途中寸時立ち寄って以来ご無沙汰していたが、今回視察してみると第一期工事三万羽養鶏設備を完了し、第二期工事計画三万羽設備も用地買収もほぼ内定して着々準備中であり、更に同一陣容の人々により長野県飯田市にも同程度の規模で種卵養鶏場を計画し第一期工事三万羽設備は完了近しとのことであった。

ヤマギシズム実顕地といえば全国に大小数十ヶ所を数える共同農業が現存するときくが、訪問したのは五・六ヶ所にすぎない。『月刊キブツ』十月号にも「素晴しい協同体社会を見るヤマギシズム北海道試験場」と題して書いたように、真理を求めて集まる近代青年の

姿をみると、何か不思議な見えざる時代の力圧がみえる。豊里実顕地でも元気な若者たちの利己心を超越して働く姿に接して考えさせられる点が多い。

久しぶりで山岸会本部に立ち寄ってみると、特講も終わったあとであり、広い講堂も深閑としていたが、顔なじみの今西さん、洞口さん、佐藤さん等々、丸六時間も話し合って、昼食のご馳走にもなり午後二時自動車に送られて、上野駅から電車で心境農産に向かったが、その丸六時間の雑談の中で佐藤さんの無農薬栽培の研究は注目に価するものがあった。

事務所社宅も完成

佐藤さんは日本海軍生残りの将校であり、温和な瞳中にも何か生死を超越した面魂を感じさせるものがある。戦後ヤマギシズム思想に触れて、山岸式無農薬栽培の実地研究に没頭し、原理と実地との一致に成功し、稲でも果樹でも野菜でも、全く無農薬栽培に成功し、春日の農場では一切農薬を使用せず素晴らしい収穫をみているという。最近毎月健康食試食会を催しその参加者も次第に増加しているときく。詳細は山岸会本部発行の『ボロと水』に連載してある。

労働を貨幣で売らないヤマギシズム信奉者の言葉にしてはじめて信のおける問題であるが、無農薬栽培法と農業経済との関係は思想革命が先決であり、農も工も商も今の日本人のように金儲けに無我夢中であり、寝ても起きても眼の色を変えて貨幣を追いかけ貨幣を奪い合っている姿は、それ自体が殺し合いであり命がけであり、農薬使用も金儲けのためには決して改めないであろう。

半無知な無責任な私欲だけ深い零細農民の農薬乱用作物に着色だ防腐剤だと念入りに加工されて、カドミュームだ、有機水銀だ、PCBだ、DDTだと汚染食品を乱売される。人生の目的が金儲けにあって社会のためにあるのではない。奪い合い殺し合いの経済社会であるから他人の健康など考えているひまがない。山岸式無農薬農法、すでに発表されて十五年にもなるが殆んど普及していない。佐藤さんの研究内容をきくと何んとか早くこれを一般化したいものだと痛感した。

ヤマギシズム特講は近ごろ盛況を呈して、今夏毎月百名を下らなかったという。それも殆んど二十才前後の青年男女ばかりであるという。真理を求めること急である若者の傾向は何か時代の動きを感じさせるものがある。この点機会を得てじっくり研究したいものである。

三、いつみても素晴らしい心境農産

一昨年八月第一回日本の共同体話合いの会をここ心境農産で開催して大変お世話になったが、あの時以来すっかりご無沙汰してしまったので、その後の発展ぶりに眼をみはりながら一泊して、精薄者養護施設心境荘苑の現況も観察したので、この方は稿を改めて書くことにした。心境農産畳工場が昨年三月火災で焼失したときいたが、来てみると焼失したのは旧工場の方で損害も貯蔵の藁程度であったらしいので安心した。五・六年前に新築した鉄骨の本工場は寸時も停止することもなく、畳の生産に多忙を極めている。

そして当農産発案研究によるスタイロ襖の

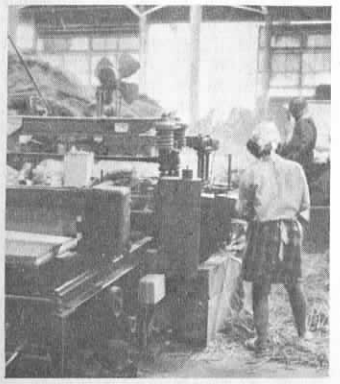
製造工場も第一期工事を完成して月産三万枚の生産能力をもち、横浜と福岡に仕上工場も近く完成する由であり、需要先も住宅公団とか市営住宅等々大口特約が進行中であり、引続き工場を拡張して月産十万枚計画を進めるとのことであった。

畳工場が無一物から出発して僅々十年にして日本一の畳製造業にのし上ったのも、元来金儲けが目的ではなく、困っているものは誰でもおいで、共同して働けばその日から誰でも安心して立派な生活ができるという見本を示す心境農産であった。さて自他共に許す日本一の畳工場にのし上り基盤が確立すると、今度は自分たちのような一介の労働者でも共同の力でこんな社会的に有意義な事業でも出来るという見本を示す理想から始めたのが、精薄者養護施設、心境苑の設立計画であった。

心境のスタイロ襖工場

さてはじめてみると大変な難事業である。心境同人はみなみなが賛成したわけではない。若い夫婦で子供のある人で馬鹿と暮らしては我が子まで馬鹿になるとそれを恐れて退散した人もあった。精薄者と同じ食堂の同席をきらって去る人もあった。畳工場で精薄者を使用することはかえって邪魔になるだけ、とても面倒はみられないと断るものもあった。更に困惑したのは精薄者を使用するようになってから製品が粗悪になり得意先から強い抗議があり、注文を解約した得意先もあった。当然心境内部でも問題化したが、尾崎さんは断固として方針を変えなかった。一度決心して精薄者の社会復帰を畳工場にかけた以上、粗悪品で信用を失墜して破産しても仕方がない、知能指数五才以下の精薄者の保護訓練がそう簡単に行くはずがない。運命を共にする覚悟で初一念を貫こうと一同をなだめたり自戒したり、なんとか安心できるまでに三年の歳月が流れたという。

精薄者とは脳が弱いだけで五体は普通人と全く変わりはない。機転とか機知の働きはないが体力はある。だから機械的に同一動作の反復労働なら、真正直なだけに普通人よりかえって訓練次第で優れてくる。例えば運搬作業など最も適役であり、自動製畳機に一定の藁を一定量づつ差入れて行く作業などその訓練次第で素晴らしい能力を発揮する。粗悪品の出来た原因もせんじ詰めてみると、精薄者の労働配分が拙劣であったという指導者の欠点にあった。


工場内部

精薄者養護施設第一期工事五十名の収容設備が完了し、第一回収容人員十五名、第二回収容で三十名、満員にするのに満三年を要したが、その三年目ごろから、使い上手と働き上手が合致して得意先からのクレームも解消したという。今は収容設備百五十名、入居精薄者八十六名、心境同人六十名と共に渾然一

体化して心境共同体を形成している。

二宮尊徳夜話に、貨幣は追いかけたら逃げられてしまうが、追いかけられたら逃げ切れるものではない。その貨幣に追いかけられるには徳をつまなければならないとあった。

西田天香さんは、ただで働いているのにうっかりすると大金持になりそうだ、と心配していたという。

心境農産では金儲けなど考えたこともない困っているもの同志の集りであるが、共同生活で皆んなで働いている中に、日本一の畳製造工場にさせられ、ちょっとした動機から始めたスタイロ襖の製造が軌道にのり、どこまで発展するかわからない。世の中というものは不思議なもので、あくせく金儲けに夢中になっても万人に一人も目的を達することは出来ないのに、他人に与えよう与えようとする人のところに貨幣が集まってくる。心境農産の尾崎増太郎さんに会う度毎に、その言行一致の力量に敬服を改たにし汲めどもつきない尾崎哲学に接するのが楽しい。

四、いつ訪れても心自ら改まる一灯園

久しぶりで訪れた一灯園、チリ一つ無い広い庭園、手入れのよく行き届いた庭木の生々した緑、純日本式の木造建築、身も心も汚れのない人々だけがここに住む資格者、邪念の袋にすぎない自分では門を潜っただけで汚れを残しそうで恐ろしい。去る八月新しき村での共同体話合いの会のこともあり、原川義雄さんに面会を求めたところ、九州旅行中とあって不在、西田武さんに刺を通ずると心よく会ってくれた。確定した用件があったわけでもないので雑談であるが、日本の共同体話合いの会も五回を重ねた。今後の在り方を打診してみると、画一的な共同体化にこだわらずお互に啓蒙し会う会合として続行したいものだと、私もそれに賛成である。

西田さんは最近印度にも台湾にも旅行されたので話題は自然そのほうに移行して、色々近況を承ることができた。ガンジー翁の高弟ヴィノバーの農地開放運動には、友人の児玉亀太郎氏が前後三年間も手伝ったことを耳にしているので、この運動のその後の成果を尋ねてみると、流石に可成りくわしく調べたであろう、本当の本当のことまで話してくれた。印度は広い開放された農地は、一千八百万ヘクタール。（日本の全農耕地は六百万ヘクタール）勿論印度にすれば一部分であり、開放した農地は荒地やヤセ地が多く、良田にするには大変な努力が必要になる。そんな努力をするよりも、売却して刹那の享楽に消費して終う。何んとか維持しているものも農耕技術が拙劣で肥料もない。結局持ち切れなくて元の地主に逆戻り、そんな例が非常に多いらしい。

カースト制度なども、改めたらよさそうなものだが、一般に教育を普及せず、自覚がないので容易に改まらないであろう。第一印度人は宗教の関係か貧乏をあまり気にしていない様子だ。その代り大富豪になると、日本では考えられないほどの大富豪もいる、極端な不平等社会です。ガンジー翁の無抵抗主義運動、あれが民族性を代表した動きかも知れません。ネール首相の革新政治も日暮れて道遠しの感ありであるが、あの広大な国土、五億の人口いつか大きく台頭する時代がありそうですね。

それから台湾の話に移り、気候に恵まれ物産も多く、島民は勤勉であり生活も楽であるが、矢張り大陸との微妙な関係、そんなことを意見を交えて辞去して、帰りに笹原先生にも一寸と挨拶して自動車に送られ、午後五時の新幹線利用、新城市着は午後八時であった。

世界一の
精薄者養護施設心境荘苑

手塚信吉

一、完全完璧な精薄者の楽園

いまから五年前、ここ心境荘苑の第一期計画精薄者五〇人収容の鉄骨コンクリート建、寝室、食堂、娯楽室、浴室、化粧室、応接室、理髪室まで完備し、精薄者男一五名、女一二名計二七名が入居していた当時であった。アメリカの精神医学者スタインバッハ博士が日本の協同体研究視察のため来日された。当協会で各地を案内した時、この心境荘苑に立ち寄り二泊して具体的に視察研究され、その完備した施設と完璧な養護指導に感嘆された。こんな優れた精薄者養護施設はアメリカにも無い、おそらく世界一であろうと評して当時の『月刊キブツ』にも投稿され、アメリカの専門雑誌にも発表されていた。そのスタインバッハ博士が今の心境荘苑の施設と運営、その養護事業の完璧さを一見したらなんといわれるであろうか。いや博士のような世界的権威者に是非とも見てもらいたいものである。

豪華完璧の設備だけなら、ドルの国アメリカの事であるから、その後立派なものができたかもしれない。だが精薄者養護施設としての真使命である不幸な精薄者に幸福な生活を与え、完全に近い社会復帰に成功させ、その両親家族まで心の救いを与える人間道場でもある精薄者養護施設となると文字通り、世界一そのものであろう。私が最初に心境を訪れたのは昭和三九年六月であった。かれこれ八年前であるが、因縁とでも言うべきか一度でお馴染みになり、関西に来たら素通りするなと叱られ、それから毎年一、二回は必ず立ち寄り、キブツのおじさんでみんなに知られている。その私が行く度毎に、新しい発見があり、感激があるから不思議である。今回は病気のため二年以上もご無沙汰して久しぶりの訪問であるだけに吃驚することばかり。その吃驚の内容を知れば知るほどまた吃驚で、山ほどある驚きの一部を見たり聞いたりしたままを『月刊キブツ』に書かせて貰うことにした。

「日本の共同体話合いの会」第一回の会合を心境荘苑で開催した一昨年の八月当時は工事中であった鉄骨コンクリート総二階建ての建物が完成していた（階下は大ホール、男女娯楽室各一室、化粧室、二階は精薄者の家族集会用の百畳敷大広間、特別洋室風呂付四部屋と化粧室）。別に精薄者用寝室も増設されて収容設備一五〇人分完了。内現在収容人員男女あわせて八六人、そして毎月三、四人づつ追加受け入れしている。

本年度計画としては予算一億円を以て鉄骨コンクリート造り三階建て、精薄者同志の結婚生活用個室三〇室の設備があり、更に引き続き総収容人員三百名を目標として敷地も整備されている。

豪華な建築、完備完璧な諸設備をみていささかびっくりして尋ねてみると、県当局も厚生省も強い難色を示したらしいが、尾崎さん一流の理想と信念と情熱とで押し切って日本にこんな精薄者の殿堂が生まれたのであった。形の殿堂に驚くよりも、その理想の現実化に一驚してだれ一人反論者はあるまい。尾崎さんはじゅんじゅんと語る。

いま日本には知能指数五才以下と精薄者が一五万人と推定されている。内公認の養護施設に収容されているものは三万五千人にすぎない。それでも国民の税金で負担する養護費が年間五〇億円、それでその施設で精薄者が救われているであろうか。うす汚れた雑居部屋、こぎたない服装、もっきりの丼飯、冷めたい取り扱い、社会復帰作業も形式にすぎない。この物価高で一日二四〇円の食費では、正に養護施設とは飼い殺し場にすぎない。またどんなに待偶を改善してみても、社会のお役に立つ人間に仕上げてやらなければ人間としての幸福はない。心境荘苑は過去三〇余年の共同生活の体験で弱い人でも共同の力で救われる。脳が少々弱いために精薄者として世捨人にされている人でも、共同社会では愛の力で社会復帰も可能となろう。その救いの道場として養護施設を計画したが、過去五ヶ年の経験でようやく自信を得たという。

入居が決定して母親に連れられてきた当座の精薄者をみると眼色はとろっとしている。鼻汁をたらしている。前のものも隠そうとしない。近寄られたらぞっとするくらい。おそらく顔を洗ったことも歯を磨いたこともないらしい。風呂にはたまに入れるであろうが、お尻も前もろくろく洗ったことはないらしい。そんな阿呆を愛情の力で習性を活かしたり、かすかな本能の偶に残っている人間性を利用して反復作用で社会復帰に近寄らせていく。根気と努力がわずかづつでも実を結んで行くのがたのしいのだと言う。

二、精薄者に奉仕する心境同人

心境農産の一貫精神に尾崎風呂哲学がある。精薄者たちも心境の風呂哲学が習性化してくると進歩の第一歩となる。心境荘苑の風呂場は一流の温泉ホテルなみであるが共同風呂である。尾崎さんは言いきる。「共同生活の第一歩は風呂にある。百人入浴しても風呂の湯が濁るようでは共同生活は失敗する」と。そんな共同風呂に、生まれて二〇年間も満足に洗ったこともない尻を持ち込まれてはたまらない。尾崎さんが先頭に立ってまず精薄者に入浴の仕方から教える。だれでも浴槽に入る前に、洗い場でお湯をたっぷり使って石鹸で徹底的に全身を洗浄する。特に下腹部を念入りに洗ってからでないと浴槽内には入れない。だから浴槽はいつも水晶のように美しい。

普通人なら口で注意すればよいが、精薄者たちには通じない。それに彼等の大半は毎朝、顔も洗ったこともない。陰部など洗った経験もない。それを一々手を取って教え込み、彼等が習性でなく習性で実施するまでにする努力は大変である。経験者は述懐する。精薄者でも肉体は健全である。女性の二〇才前後は女盛り、乳房も熟している。肉体は羽二重餅のよう。だれでも男ならいささか辟易するが、そんな女体を頭のてっぺんから足の裏まで洗ってやる。陰部も肛門も例外は許されない。いやそんな部分こそ一層親切丁寧に石鹸を十分使って洗ってやらねばならない。なかには気分を出して寄りそってくるのもいる。いや大変な仕事であるが絶体手をぬくことができない。それを毎晩反復して習性化するのは容易ではない。だが一たん習性化すると彼等に

は嘘もごまかしもないので必ず実施するから安心である。

本能や習性を活用して矯正する必要は風呂だけではない。夜尿症、鼻たらし、寝ぼけ癖、発作症癖、飯の食い散らし等々悪癖百態を、それぞれの感どころを知って矯正していく。この点尾崎さんという人は大心理学者か千里眼か、人情の機微をつかむ名人である。それは結局根気と愛情の問題である。夜尿症の精薄者を三ヶ月間も不寝番で矯正してしまった話など神技そのものである。青鼻たらしの三〇男が尾崎さんの真剣な努力で全治している。勿論、心境同人はだれでも奉仕の精神に徹している。

心境では入浴でも食事でも、娯楽室のテレビや楽器でも、精薄者優先であり、食事でも菓子、果物などの配分でも、すべて精薄者が先であり、絶対公平である。面会に来る両親が土産物に菓子や果物など持参しても決して受け取らない。精薄者全員八六人、同じものを同じ数だけなければ、捨ててしまっても分与しない。溺愛心から内緒で我が子に好物など持参するのを発見したら、その場で親子諸共帰ってもらう。少々わびても許さない。共同生活のポイントは公平が第一義という。心境では偽善や虚飾は全々通用しない。真実だけが物を言うのだ。今、心境同人は六〇余名、老人子供をのぞくと三〇数名であるが、昼は激しい重労働に耐えながら、夜は交替制で精薄者八六名が安眠できるように夜番する。

これが大変な仕事である。夜尿症のものは二時毎に用便させる。寝相の悪いものは風邪をひかないように毛布を直してやる。寝ぼけて起き出すもの、夜泣きをするもの、千差万別。それを夜通し面倒をみてやるのが、男女四人の心境同人である。そして午前六時には精薄者全員を起こして、洗面、食事、労働服の着用、午前正八時工場作業開始、徹底した奉仕精神なしには一日だって勤まる役目ではないが、誇りをもって実行している。

三、精薄者より両親家族の救いの道場

全国どこの町村でも五人や十人の精薄者がいる。知能指数七、八才程度のものは農業労働などに役立つので、そのまま生家で働く例が多い。だが知能指数五才以下となると、全全使いものにならないので、早く精薄者施設に入れたいが収容力がないので断られる。村中から馬鹿よ阿呆よと蔑まれ、一家全部がかたみのせまい思いをする。そして伜の嫁取りにも、娘の結婚にも障りになる。精薄者本人は何の罪もないのに、脳が少々弱いだけで親兄弟にまで馬鹿にされたり邪魔にされ、世間体が悪いと外出もさせない。無刺激からますます馬鹿になる。見捨てられると増々ひねくれものになる。発作的な狂暴性になるものもある。一家をあげて陰惨そのものである。こんな家庭が奈良県だけでも三千戸もあるという。

そんな家庭から公認の精薄者養護施設に入居を申し込んでも、順番が来るのは何年後かそれもようやく入居ができてやれやれと思っていると、見すぼらしい姿で逃げかえってくる。そんなところに再び送る気にもなれない。さりとて家においては嫁のきてがない。一層のこと、親子心中をしようかと嘆き悲しむ母親もある。それでなくとも普通の精薄養護施設など、所長とか係員など別棟の立派な官公舎に住んで美食を取りながら、精薄者たちの食事は一日の予算が二四〇円、この物価高で粗食の様子も想像がつく。あかに汚れたよれよれの服装、うすぐらい追い込み部屋、栄養失調一歩手前の生活で、生きたむくろを動物的に保っているだけ。そんな惨めな食費予算をピンハネしていた所長さえあった。

そんな養護施設に居た精薄者がたまたま心境荘苑に来るとすぐ判るという。心境では三食共カロリー満点の栄養食であり、全員一切平等食い放題であり、夕食には酒もビールも自由に飲めるのだ。他の養護施設から来た精薄者は、ガツガツ、セカセカと米飯を大井六ハイも食うのがいる。だまって食わせておくと段々減って一ヶ月も経過すると普通人と同じ位になるそうだ。

精薄者の暗影など全くない明朗さ

母親に連れられて入居する精薄者、欠点は隠せるだけ隠してくるから、母親の帰ったあとが大変だが、夜尿症でも鼻たらしでも、気違いや癇癪もちでないかぎり、そのまま引き受けるそうだが、欠点を矯正して行くのは大変な仕事である。不可能を可能に変える難業であるから一ヶ月の入居者はせいぜい三人か四人、県当局では頻りに五人十人と押し付けたがるがそれは無理なのだ。他の養護施設のように飼い殺しにするのではない。知能指数五才四才程度の低脳人間を愛情と根気で育成して完全に近い社会復帰をさせるのだ。心境同人一体となって宝物を扱うように大切にし、神の子を尊ぶように厳粛に訓育するのだ。

だから前述したように、風呂哲学からはじめて、食生活に及び、昼は芋虫のように泥まみれで働くが、一風呂浴びて夜の服装に着替えると、有福な家庭の令嬢の姿である。そして楽しい五品六品料理付きの夕食をすます。娯楽室にはテレビあり、レコードあり、楽器もある。午後八時になると、一流ホテルのダンスホールそのままの大ホールで、自動楽器の音楽に合わせて手に手を取ってダンスが始まる。適度の疲労で午後九時になると一同立派な寝室に入る。ここには信頼しきっているおじさんおばさんが付き添っているので安眠ができる。

心境では一人の例外もなく絶対平等、絶対公平である。自由、平等、公正の三原則は共同生活の根本であるが、精薄者の待遇にも絶対必要である。ヒガミ根性が特に激しい彼等である。西瓜の一片を与えても他人のと見較べて同じであれば安心してにこっとする。ちょっとでも自分のが小さいと思うと忽ち不機嫌になる。知能指数四、五才の精薄者であるが、本能で働く反復作業でもうまく出来ると得意になる。そこをほめてやると喜ぶ。その急所を心得て使用すると習性化して、機械動作と同様で常人よりかえって能率的にもなる。それは反復動作には常人の習性はかえって邪魔になるからである。

そして根気よく指導していくと、機械的な流れ作業である畳製造作業には結構役立つようになる。即ち社会復帰である。心境荘苑に入居して一ヶ年も経過すると、大らかな気品が備わり、顔色も艶々として明かるく朗らかで健康美そのもの、いかにも育ちのよい良家の娘という感じである。面会に訪れた母親がそんな我が子をジーッと凝視して、あまりの変わりように我が眼を疑いながらハッと気付いてその場にワッと泣きくずれるものが大半である。

そんな母親が告白する。育て方ひとつでこ

うも変わるものか。溺愛こそしたが真の愛情を忘れていた。世間態が悪いの、他人に恥かしいのと、上っすべりの体裁だけ気にして、馬鹿よ阿呆よと家族中で厄介者扱いをし親としての真実の愛情を忘れていた。ああ申し訳が無かった恥かしい、自分の愚かさに気が付きました。我が子を馬鹿よ馬鹿よと蔑んできた自分の大馬鹿が恥かしい、と顔中を涙にして心境同人の人々を前にして泣きぬれて語る心情は美しい。

そんな母親に一泊を勧め、心境生活の内容を知ってもらう。みるもの聞くものみんな吃驚することばかり。自由で公平で平等で誰一人差別がない。命令者も指導者もないがみんな一生懸命に働いている。心と心の触れ合いで共同作業に寸分の無駄がない。時間がくるといっせいに仕事を止めて一風呂浴びる。温泉のような大風呂、満々とたたえた水晶のようなすきとおった湯、それに真先に入るのが精薄者たちである。次に入るのが工場で働く人々、最後に入るのが代表者の尾崎先生、この光景をみただけでハッと目が覚めてしまう。一同風呂から上がると、それぞれきれいな服装になって食堂に集まる。ここも精薄者優先であり、五品六品付きの栄養満点の夕食をゆっくり楽しむ。食後の娯楽も満点である。心境荘苑の大ダンスホールは世界一の名声がある。午後九時になると、それぞれ自室にもどる。精薄者専門室は一室四人、きれいな寝台が静かに待っている。一泊した母親は心も軽く気も浮々と、人間性に目覚めて帰っていく。

精薄児は上流家庭にも遠慮なく生まれてくる。父親は市町村長あり、県会議員町会議員あり、大学教授も医学博士もいる。大地主や億万長者もいるが、そんな人々も心境荘苑に行くとただの子不孝者の親馬鹿にすぎないことに気付くであろう。哀れとは思いながらも厄介者扱いをして来た二〇年、いま心境荘苑を訪れて、僅か一ヶ年で生まれかわったような明朗な我が子の姿をみる。母親のようにワッと泣き出しはしないが、こみあげる涙を平身低頭で押しかくし感激の情を飲み込む外はない。

そして応接室に面会に出てきた我が子であるが父親のそばに寄りつかないで、尾崎さんに抱きつくように寄りそってはなれない。正に父親失格の情景である。その時の父親の気持は複雑そのもの。真愛を傾けて導けば僅か一ヶ年で更生するものを、二〇年間も馬鹿よ阿呆よ邪魔者よと放置して父親失格どころか、人間失格者でいる。偽善や虚飾の名誉職がなんだ、富がなんだ、人間愛を忘れてなんの人生か、目前に端座する尾崎さんから御光がさしてみえる。恥かしさに耐えかねて穴にでも逃げ込みたい気持である。

我が子の面会に心境荘苑を訪れる両親の気持は同じであり、反省自戒もまた同じ、同じ思いの精薄者の両親、期せずして生まれたのが家族会である。

心境荘苑家族会は毎月一回日曜日の会合であり月毎に盛況を呈しているが、時々は心境同人共々旅行会とか観劇会もある。そんな場合でも平等無差別、絶対公平は崩さない。絶対平等公平は心境同人三〇余年の共同生活体の生命であり鉄則である。この鉄則を応用したところに養護事業の成功もあった。ところが、私欲が鬼となり個別経済生活に慣れきった日本人には、それを理解し実行できる人は少ない。口が酢っぱくなるほどやかましくいっても、旅先などで溺愛から我が子だけに甘い物でも食べさせたくなる。それを尾崎さんが知ったら大変なことになる。それは心境荘苑に爆弾を投げ込まれたと同じことだからである。

話は少々古いが数年前、精薄者全員、家族

共々大阪の芝居見物の時である。開幕中であったが、ある母親がハンドバックからチョコレートを取り出して内証で我が子に与え、隣席のものにも二人ほどお相伴を受けていた。それを見ていた尾崎さんは、開幕中も忘れて夢中でとんで行き「何をするか。今もらったチョコレートを出しなさい」と三人のものから取り上げ、母親には「さあ子供を連れて帰って下さい。あなたのように我が子だけを偏愛して本当の愛情を考えない人は、心境荘苑の敵ですか。子供を預ることはできない」と、きっぱり断ってしまった。母親はおいおい泣いて詫びるが断固として承知しない。観客は総立ちになり大騒ぎになったが、尾崎さんの厳とした正論に感激してしまい誰も文句をいう人がない。正に芝居以上の名優の大芝居であったであろう。

ところが母親が連れて帰りたくても、子供の方は尾崎さんにかじりついて絶対にはなれない。豪気な人でも、さすがの尾崎さんもほろりとさせられ、とうとう敗けて観客も拍手をおくる。そのなかからすすり泣きの声も聞こえていた。

いくら焦ってみても私の拙劣い文章では、偉大な心境荘苑の内容実体を世に伝えることは難事であるが、精薄者養護施設の在り方として真に革命的なものであり、その家族の人間性回復道場としても特筆大書に価するものであることを書き加えておく。

四、精薄者の社会復帰も共同体から

「人間は共同せにゃあかん」これは尾崎さんの持論であり、どんな圧迫妨害にあっても曲げない信念の持主であり、四面楚歌の中を切り抜けて今日を築いている。この三〇余年の共同生活から分業の利を体得し、低能力者でも単調な流れ作業となると常人よりかえって役立つことを知ったらしい。機械化した畳床製造であるから、中年のおばさんたちにもできる。そこにヒントをえて、精薄者の社会復帰に畳工場を当てようと大分以前から考えていたらしい。

一方世間一般にある精薄者養護施設をみると、おざなりの社会復帰訓練はしているが、指導の仕方も熱の入れ方もなっていない。第一本当の人間扱いをしないで、なんで人間復帰ができよう。人間復帰なくして社会復帰ができるはずがない。心境ではまず彼等の人間復活からはじめることにした。

心境荘苑に来る精薄者は知能指数三五以下、即ち四、五才の幼児程度の低脳者ばかりである。六、七才以上の知能があれば農業労働に役立つので養護施設には入れない。家庭ではみんなに厄介ものにされて二〇年にもなるので馬鹿の上にひがみ根性があり、ひねくれ者になっている。阿呆であってもだましが効かない。怒らせたらなにをするかも判らない。だからはじめは他の者には任せられない。尾崎さん一人でめんどうを見る。だから最初の収容設備五〇人分完成しており、県からも喧しく催促されたが、最初は六名を収容し、毎月二、三名づつ入居させて、徹底的に愛情をもって世話をして両親に優る信愛関係になる。

ここに入所させるのに、大低は本人の欠点をかくしている。入所してからテンカン症を発見したり、夜尿症を発見したりするが、いったん引き受けた以上、意地でも弱音を吐かない。なんとか本能と習性とを巧みに利用して治していく。テンカンなども心境の中には発作の起こる動機がないのか不思議に直ってしまった。夜尿症の女は寝ずの番をして、それっと思うとすぐ起こして便所に行く。夜間の飲水を注意する。腹部を温めてやる。朝起きてお漏らしをしない朝はほめてやる。そんなことを二ヶ月も努力すると、夜尿の悪癖も

直ってしまうから不思議である。鼻ったらしの矯正法も根気のいる仕事であったが、最後の勝利は愛情にあった。入浴時も全身を入念に洗ってやり、特に下腹部を徹底的に石鹸をつけて清浄に洗ってからゆっくり浴槽に浸らせる。そんな繰り返しも三〇回、五〇回と毎晩実行すると、習性になって彼らは必ず実行する。常人のようなズルサがないから一度習慣づくと、あとは必ずその通りに正直に守ることが判った。

この習性を畳製造工場の仕事の上に応用した。まず毎朝大阪京都方面にトラックで畳を送るが、四百枚の畳床の積みおろしは大変な仕事であるが、機智も機転も不要で、ただ同じ動作であるから力さえあれば誰にでもできる。彼等もトラックに乗ることを非常に喜ぶ。三台のトラックの助手ができた。

次に藁の運搬である。山積みにした貯蔵所から工場に送る作業は反復動作であるから幼子にもできる。汚れを気にしない彼らの独断場になった。次に畳床の機械操作であるが、前述したように製品の不揃いから得意先の文句も出たが、断固として継続し、専ら製造過程の単純化と訓練とに力を入れた。一台の機械定員七名のうち五名まで精薄者で間に合うようになった。

広い構内であるから掃除係も一〇名ぐらい必要である。毎日二百人分から三百人分の食事の仕度であるから、台所係も二〇人ぐらい必要であるが、助手としては一人前である。風呂係も洗濯係も彼等にむく仕事はいくらでもある。そして生産拡大中のスタイロ襖の製造設備も徹底した自動式流れ作業に設計されているので、所要人員の八〇%は精薄者で間に合う。心境農産の共同体と養護施設とを結合した本計画は大きな成果が約束されている。

五、心境荘苑家族会の誕生

肩身のせまい思いの二〇年から救われて、心境荘苑関係者として誇りを感ずるようになった精薄者の両親、誰いうとなく家族会が誕生した。そして毎月一回心境農産に集まって、我が子の動静を知ったり、心境荘苑の内容を勉強したり、尾崎さんの話をきいたり、時には一泊したり、次第に融け込んで行くようになった。そして知れば知るほど我が子の救われたことがありがたい。この幸せを永く持続したいのは皆共通の思いである。

或る会合での尾崎さんの発言から。

「人間だれでも生身の体、わしも七〇才を過ぎた。心境同人も古参のものは皆同じだ。誰がいつ死ぬか分らない。それは誰だって天に任せる外はない。心境荘苑は養護法人組織であってだれのものでもない。みんな全員が会員になって参加して盛り立てていけば、結局みんなのものである。いくら社会復帰が出来ても精薄者では管理も運営もできない。両親家族が一同協力して適任者を選んで担当させ、心境農産と結束していけば、事業に年令はない。永久に維持発展が可能である。

その為には、もっともっと心境荘苑も農産も内容を知り実体を知り、古参の同人とも仲良く融け合っていく必要がある。その為には実際に生活を共にし、精薄者たちの動静も知りつくす必要があるから、一ヶ月交替ぐらいで二人乃至三人づつ泊まり込みの手伝いから始めてはどうか」と提案した。

精薄者の両親にしてみると、実は願望そのものであった。精薄児を持つ親の苦しさを思うと、どんなことにも耐えられる。世間からは後指をさされ、家庭内では陰惨な毎日であり、仲の嫁取りも娘の婚姻も支障があり、来客の度毎につらい思いの繰り返し、親子心中を思い詰めたことも何度もあった。それが今は心境荘苑に救われて、世間もうらやむ待遇を受け、社会復帰も立派にできて、幸せそうに働いている姿をみると、涙の出るほどうれしい。全員即時賛成、即日実行することになった。

その母親たちが、台所に洗濯場に風呂場に心境同人の古参者に交って、精薄者たちと共に、にこにこしながら立ち働いている姿は美しい。ただで働く喜び、共同生活の魅力、そして一流ホテル並の文化生活、個人農家など中流以上の家でも想像も及ばない栄養満点の三食料理、これがほとんど無産者ばかり。老人でも共同化すればこうですよ、の好見本。日本の新時代の方向を教えている。

六、精薄者にも結婚の喜びを

尾崎さんは精薄者青年男女と共に生活して、その環境、待遇、指導等により心身ともに進化してゆくさまをジーッと観察してきた。そして、機智、機転、記憶、予想力などでは常人に劣っているが、本能とか習性を活かし得る分業化した生産事業では、精薄者であっても充分役立つことが分った。一方生活面でも著しい進歩を発見した。心境のような高文化生活の中で規律ある共同動作を見習っていくうちに、心境同人に同化して態度も行動も風貌までもほとんど見分けがつかないまでに酷似してくる。そして眠っていた性欲まで目覚めてくる。

入所当時は羞恥心さえなく、人前でもまえを隠そうとしなかった若者が、二、三ヶ月もたつと自然に羞恥心を生じ、身だしなみを気にするようになり、女性への関心を持ちはじめる。そこまで進化すると仕事の能率も高くなってくる。勿論女精薄者も同じことであり、一段と美貌にもなる。白痴美というものは特に男性を引きつけるものである。

精薄者男女の過失情事にも注意を要するようになる。廊下でAにここ吸われた、と頬をおさえて訴えてきたB子に、大岡裁判の役割を果たすのも尾崎さんである。AとB子と二人を呼んで、B子が好きかとAにきく。ウンという。B子、お前もAが好きかときく。B子は恥かしそうに肯定する。それじゃお前たち頬なんか吸わんで口を吸いな、その方がもっと楽しいで。ただ内証でしちゃあかんで、必ずおっちゃんの前でしろ。内証でそんなことしたら、二人共すぐに親元へ帰してしまうぞ。と強く言うと必ず約束を守る。

ここの精薄者は親元に帰すぞといわれるのが一番恐ろしい。世間の養護施設とは逆である。そんな好き同志がもう十組もいるそうだが、決して風紀を乱すようなことはないという。尾崎さんは考えた。彼らも常人と変わっているのは少々脳が弱いだけ。あとは五体も健全であり訓育さえ良ければ、役立つ人間になったものを、親達の無智か無責任か、馬鹿よ阿呆よと放置していたのだ。心境荘苑に引き取ってからどんどん精神的な進歩があり立派に社会復帰もできている。社会的価値からみると親のスネカジリ大学生など及ぶところではない。性的目覚めがある以上、彼等にも結婚の喜びを味わせてやりたい。その考えを各々両親に話をすると感激して声をあげて泣いて喜ぶほどであった。本人たちに話をすると、おっちゃんおっちゃんと抱きついて喜んでおり、その日のくるのを楽しんで一生懸命働いている。

だが遺伝性のことも考えねばならぬ。断種法は精薄者は適用外である。いろいろ県当局とも相談のうえで最善対策を考えてある。そしてすでに述べたように、精薄者夫婦用の個室三〇室の理想的な鉄骨コンクリート造り三階建ての新築工事も近く着工の予定という。これもまた世界一の壮挙であろう。